

保育計画成果報告書

法人名等	一般社団法人なないろ会
施設名	なないろ保育園
報告者（役職）	森 三千代（園長）
住所・連絡先	福岡県大野城市畑ヶ坂 2 丁目 1 - 17
	☎ 092-596-7716
	E-mail nanairo0510@gmail.com

○タイトル（保育計画）

子どもも職員も笑顔に“心と身体の安心・安全”をもたらす環境を目指して

○主な助成備品

大型室内遊具(システムブロックシーソー、ソフト滑り台、ハイハイ EVA ハウス他)、お人形(着せ替えだっこ人形)、知育玩具(ベビープレートセット)、玩具(みつばちとはたらくるま)等

1. 保育計画策定の目的

当園は企業主導型保育施設として平成 30 年 10 月に 0、1、2 歳児までの定員 19 名で開園しました。(その後、令和元年 10 月に定員 30 名に変更)。開園当初より、予算の都合上、最低限のおもちゃや遊具しか準備できず、大小に関わらずほとんどが職員の手作りで対応してきました。手作りおもちゃや遊具でも十分に楽しんで遊ぶ姿に喜びを感じる一方で、安全面への配慮を行っていても手作りが故に壊れやすかったり、子どもたちの成長に伴い危険だと感じる場面も多くなるという実情がありました。そして何より手作りでは対応できないものがあり限界を感じていました。

また当園では 6 か月～小学校 3 年生までを対象とした病児保育室を完備しており、たくさんの方が利用があります。安静な子もいれば、体調が比較的落ち着いており、保育者と一緒に遊んで過ごす子と様々です。病児保育を利用する子どもたちにも安全が確かなおもちゃに囲まれ、ゆったりと自分が好きな遊びを選び安心して過ごせる空間を提供することも必要だと感じました。

そこで、0、1、2 歳児、病児保育利用の子どもたちの年齢と発達に応じた安心、安全で適切な遊具、玩具を準備して新たなたくさんの方の経験をさせてあげたいと思いこの度、助成申請の運びとなりました。

2. 具体的な実施内容

①大型室内遊具(システムブロックシーソー、ソフト滑り台、ハイハイ EVA ハウス)

毎週水曜日に運動遊びの時間が設定されており、室内での体力強化を行っています。ブロックシーソー、すべり台などの大型遊具のほか、手作りの遊具や既存のマットなど様々なものをその時によって自由に組み合わせて楽しんでいます。

0歳児は直線上に障害物(ソフト滑り台、マット、手作り遊具、システムブロックシーソー)を並べて使用、1、2歳児はサーキット状に障害物を並べて使用したりと遊び方は多様です。ハイハイ EVA ハウスは0歳児がハイハイやつかまり立ちなど上がり下がり運動で全身を使い遊んでいます。また鏡や窓を通してお友達同士で関わりを楽しむ姿もみられています。



ソフト滑り台



ハイハイ EVA ハウス



システムブロックシーソー

2歳児が太鼓橋として登り、滑り降り ゆらゆらシーソーを楽しんでいます



②お人形(着せ替えだっこ人形)

1、2歳児が自由遊びで使用しています。

赤ちゃんを使いままごと遊びと併用。

自分たちがお世話する側の役割になることが

楽しいようで年齢や性別を問わずにみんなが大好きです。



③知育玩具(ベビートイプレートセット)

0歳児が保育者とゆったり関われる時間に机上遊びで使用しています。また床置きできるのでずりばいやハイハイの時期の子も遊んでいます。0歳児も静と動の活動を使い分けメリハリのある保育になるように心がけています。

病児保育への貸出しも行っており、病児保育室ではマンツーマンで子どもと接することも多く、落ち着いて過ごせるなかで興味を持ってくれるようです。病児で使用した際には消毒を怠らないように清潔にして貸し借りするように努めています。



0歳児のクラスで使用



病児保育室で使用

④玩具(みつばちとはたらくるま)

年齢問わず室内での自由遊びで使用しています。

クレーン車、ショベルカー、ダンプカーと3種類の乗り物があり、みつばちを乗せ色んな組み合わせで何台も繋げることができます。またみつばちの人形はおきあがりこぼしになっているため、お人形単独で遊ぶ姿もみられます。みつばち、クレーン車、ショベルカー、ダンプカーなど種類ごとに並べたり、他の玩具を道路や駐車場に見立てたりして遊びが展開しています。



3. その成果と評価

①大型室内遊具(システムブロックシーソー、ソフト滑り台、ハイハイ EVA ハウス)

システムブロックシーソーは上下ひっくり返して使用することができ、シーソーとして子どもたちが大好きなアンバランス感を楽しめ、年齢を問わず楽しんでいきます。一方、ひっくり返し山の部分が上にくることで、2歳児などは手と脚を使いしっかり力を入れ握ることでよじ登り、頂点からは滑り降りるという使い方もしています。

また意外だったのはブロックを寝かせ、くぼみ側に自分たちが入ることにより、カウンターに見立てたお店屋さんごっこが始まっていました。ハイハイ EVA ハウスは1、2歳児がおうちやお店として見立て、ごっこ遊びが始まるなど、子どもたちの発想の豊かさを感じました。



②お人形(着せ替えだっこ人形)

自分の経験などからその場面を再現したり、赤ちゃんを相手に創造力とイメージを広げ遊ぶ姿が見られます。自分の話し相手にもなり、赤ちゃんを通して保育者やお友達とも会話が広がり、おうちごっこから病院ごっこ、保育園ごっこなど展開は様々。自由に思い思いの言葉で表し、表現する姿に色々な感情が見てとれます。また、赤ちゃんはスタイ、服、パンツの着脱ができます。何度も脱がせては着せを繰り返し、手先の発達、子ども自身の基本的な生活習慣の興味へとつながっているようです。脱がせることはできても着せることは難しいなど発見があり、保育者にやり方を尋ねたり自分でしたいという気持ちも見られています。

③知育玩具(ベビートイプレートセット)

様々な素材が使われているので、触ったり、鏡をのぞき込んだり、ひもを引っ張ったり興味をもって来ています。「さがす」「さわる」「ひく」「うつる」などが五感を刺激する玩具となっており、好奇心や注意力、記憶、認知の発達を促してくれています。しかし集中して遊べる子とそうでない子もおり、お友達が使っているものに次々と興味に移り、邪魔をしてしまう場面もみられます。

④玩具(みつばちとはたらくるま)

乗り物だから男の子が中心となり遊ぶことを想定していましたが、性別を問わず女の子も楽しんでます。自分のお気に入りの車にみつばちを乗せ、お友達とのやり取りを交わしながらイメージを膨らませているようです。

車同士を上手く繋げられたり、長い距離を走らせることができると満足気な表情が見られます。1、2歳児になると遊びの中でみつばち、クレーン車、ショベルカー、ダンプカーなど種類ごとに分けたり、他の玩具を道路や駐車場に見立てたりして遊びが展開しています。「働くるま」の音楽を流すとみんなで歌いながら車を走らせたり「ぶんぶんぶん」など思わず子どもも職員も口ずさみながら遊ぶ姿が見られます。

4. 今後の課題と展望

大型遊具は手作り故の破損などの心配はありませんが、運動遊びなどで使用する際には保育者がしっかり固定する、子どもたちが危険な使い方をしないなど安全面に十分に配慮しなければなりません。また遊びが展開する上で子どもたちだけで遊具を運んだり向きを変えたりしないように注意しています。

着せ替えだっこ人形やみつばちとはたらくるまは数が限られていることで、交代で仲良く遊べるような工夫が必要です。保育者が人形や車を使う子以外の役割を提案することや、ほかの物を代用し役割を分散させることでみんなが満足いく環境を作る必要があります。はたらくるまは他の玩具を道路に見立てる姿があるので、簡単な交通ルールなど今後知らせる機会にもなるかと思えます。

ベビートイプレートセットは子どもたちの主体的な活動を損なわないように気を配る反面、次々に興味が移ったり、発達や個性により集中力に差があるため、保育者の働きかけで興味、関心の持ち方がかなり変わってきます。

0、1、2歳児だけのわが園ですので、どの遊具や玩具も与えるだけではなく、遊びの展開やさらに創造性や感性を育てるために保育者の言葉かけやヒント、介入するタイミングなど子どもたちへの援助と働きかけが大変重要となります。助成していただいたたくさんの素晴らしい素材を最大限に活かせるように保育者のさらなる自己研鑽と保育力の向上を目指し、職員一同努めていきたいと思っています。

大切に使用させていただきます。この度はありがとうございました。

以上